

3号機から白煙

福島第一原発 正門近く 高い放射線

東日本大震災で被害を受けた東京電力福島第一原発3号機（福島県大熊町）で16日午前8時半ごろ、白煙が上がっているのが確認された。核燃料を貯蔵するプールが沸騰している可能性がある。また同日朝には、原発付近では高い放射能が観測されたが、この原因として、2号機で起きた原子炉格納容器の損傷だとの見方が強い。

原発の正門近くでは午前10時40分ごろ、毎時1万ボシーベルト（10³ミシーベルト）の高い放射線が計測された。

3号機の白煙について、枝野幸男官房長官は午前11時過ぎの記者会見で、「3号機の格納容器から水蒸気が出ているとの報告を受けている。（放射能を含んだ）水蒸気から一時的に高い数値が確認されたのではないか」と述べた。

また経済産業省原子力安全・保安院は同日、「2号機の格納容器の圧力抑制室で破損が起き、高濃度の放射性物質が外に出ている可能性がある」と話した。

東京電力は3号機の白煙について、核燃料の貯蔵プールの水が蒸発しているとの見方を示した。